

<青森・謎の穴> 行政も対応困った 価値判断難しく

毎日新聞 4/12(水) 19:32配信



小田桐さんが埋め戻した後、テレビ局の協力で再び掘り返された穴。結局、何も見つからなかった
= 青森県つがる市稲垣町福富で2017年4月2日午後4時25分、一宮俊介撮影

青森県つがる市の麦畑で3月上旬、謎の穴が見つかった。「隕石（いんせき）が落ちた跡では」と宇宙へのロマンが広まり、畑の所有者が重機で掘り返したが何も見つからなかった。「専門家の調査まで待ってほしかった」との声もあるが、そもそも学術的に価値のあるものが突然現れても、行政側も対応できる態勢がないという現実がある。どうするのがベストだったのだろうか。【一宮俊介】

【動画】謎の穴 落雷？隕石落下？麦畑にぽっかり

「もしクレーターや隕石が落ちた跡なら学術的に重要なもの。観光名所にもなりえた」。そう話すのは国立天文台（東京都）の縣（あがた）秀彦准教授だ。穴は南北に約2メートル、東西に約3メートルの楕円（だえん）形で、深さ約1.5メートル。縣准教授によると、これほど大きなクレーターのような穴が国内で見つかるのは非常に珍しいという。人類誕生の謎を解く手がかりが見つかる可能性もゼロではなく、縣准教授は「専門家が調査するまで現場を丁寧に保存すべきだった」と指摘する。

謎の穴は、麦畑を所有する小田桐賢一さん（48）の父親が3月上旬、一面を雪に覆われていた畑で見つけた。小田桐さんは「隕石の跡かも」という期待感と「何もしないと（うわさが広まり）誰かが畑に入って荒らされてしまう」という懸念から、約2週間後に重機で穴を掘り起こしたが、何も見つからなかったため埋め戻した。穴が何だったのかは謎のままだ。

◇「見守るしかなかった」

掘り返した直後、短文投稿サイト「ツイッター」では「専門家の到着を待つてほしかった」との意見もあったが、「所有者を責めるべきではない」との声も書き込まれた。可能性を秘めていたかもしれない穴を保存する手立てはなかったのか。浮き彫りになったのが「価値判断の難しさ」だ。

穴の周辺には何らかの物質が飛び散っていた可能性がある。穴の形状から物体が飛んできた方向なども推測できるため、全体を保存する必要があった。だが、畑に突如現れた穴を学術的に貴重だと判断するのは専門家でも難しく、一般人には不可能に近い。今回も掘り起こす直前には既に穴の周辺が踏み固められていた。

行政も身動きが取れなかった。例えば、住宅を建築中に敷地内で古墳などの保護すべき遺跡が見つかった場合は、文化財保護法によって行政は掘削行為などの停止や禁止を命じることができる。だが、つがる市教委などによると、隕石の落下は通常想定していないため、対応できる専門の部署や担当者はなかった。市として積極的に関わることもできず「見守るしかなかった」と困惑する。

◇連絡態勢や資金の問題も

課題として指摘されているのは、学術的な意義が見込まれる現象が起きても、それを専門家につなげる連絡網が整備されていないことだ。青森県内でも地学の専門家はほとんどいないのが実情で、地質学が専門の県立郷土館の学芸主幹・島口天さん（49）は「青森県は自然を売りにしているわりには態勢が薄い」と嘆く。

また、穴の保存が必要だとしても、金銭的・人力的な支援がない中では当事者が自力で保存をするのはハードルが高い。小田桐さんも「他人が畑に入らないようにするために周辺に柵を立てる余裕まではない」と話す。

一連の騒動で明らかになったのは、「科学的な視点」が専門家以外には十分に根付いていないということだ。縣准教授ら天文学の研究者たちは、突発的な自然現象が確認された場合の対応マニュアルの作成を検討している。発見時の相談窓口をどこにするのかや、現場保存に必要な資金の集め方などで、縣准教授は「今回の事態で本来はどのように対応すべきだったかをまとめたい」と話している。

つがるの畑の大穴 隕石の可能性も

Web東奥 3/30(木) 20:50配信



畑にできた不思議な穴をのぞく島口学芸主幹（中）ら。左は所有者の小田桐さん＝30日、昼ごろ

直径約3メートルの不思議な穴が見つかった青森県つがる市稲垣町の麦畑を、地質に詳しい県立郷土館学芸課の島口天学芸主幹や、県内の天文愛好家らが30日、相次いで訪れた。同主幹らは「隕石（いんせき）が落ちた可能性が高い」との見解を示した。

穴は、所有者の会社経営小田桐賢一さん(48)が今月14日、見つけた。島口主幹らは小田桐さんから当時の状況などを聞き取りし、現場を見学した。

島口主幹は「穴や土の飛散状況を見ると隕石落下の可能性が高い。角度は分からないが、南か南南西

から落ちたと思う」と分析。「隕石でクレーターができた例は国内で初めてのケースかもしれない。驚きだ」と話した。

また天文教育普及研究会会員の甲田昌樹さん(55)＝東北町＝は「もし隕石ならば、大きさは数センチから20センチあるかも」と推測。別の愛好家は「氷や塵（ちり）でできている彗星の場合、何も見つからない可能性がある」と述べた。

小田桐さんは30日、「穴を発見する数日前の朝、家の中で雷のような光と大きな音を感じた」と証言。青森地方気象台は、3月10日前後の朝、つがる市で落雷は観測されていないとしており、落雷と思った時に飛来物が落下した可能性もある。

畑に雪が残る、発見時の写真を見たという島口主幹は「当時の雪の残り具合などから、穴はもっと前にできたかもしれない」とも語った。